

# みみよい



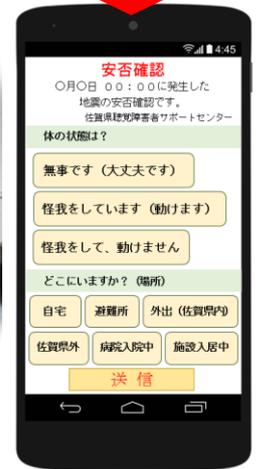
## なお知らせ!

みみの記念日 3月3日耳の日 6月6日補聴器の日 9月9日人工内耳の日

2017 年もあとわずか。今年の 10 大ニュースをまとめました。

1. 指定管理 2 期目スタート(4 月)
2. 災害時安否確認システム始動(9 月)
3. 手話言語条例制定めざし県議会に委員会設置(9 月)
4. 養成講座着実な実績 手話4名、要約筆記3名 合格(3 月)

5. 障害者差別解消法 ソフト面で改善、ハード面は未だ
6. 聴こえの相談 80 歳代急増
7. バルーン写真コンテスト 第 1 回
8. 聴覚障害者雇用企業情報交換会立ち上げ
9. 中島和次さん「手話・この魅力あることば」DVD 出演
10. 医師相談 山口医師就任



## 写真コンテスト発表

テーマ：空のある景色  
夏本番



センター長賞  
吉田 敬さん  
「山男になろうかな…(苦笑)」



センター長賞  
一平 かき圭介さん  
「あつたー」



審査員特別賞  
中島 和次さん  
「ひまわりに人の歩道」



審査員特別賞  
米倉 葵さん↑  
「夕立後」



最多得票賞  
佐々木 晃子さん  
「空…どこまでも」



あと一步で賞  
香田 佳子さん→  
「神の光いずる夏」



シリーズ(1)  
山口相談医のひと言コメント

今年4月から佐賀県聴覚障害者サポートセンターの相談医を担当しています。相談を受けるようになって、

普段の診療ではお互いに話せていないなど思われることが浮かび上がってきて、お一人お一人のそれぞれの想いを伺って、どのような解決の道があるのだろうかと探っています。私としては「相談を受ける」というより一緒に考えさせていただいているなと感じています。

30分と言う時間は長いようですが、あれこれ話をしていてとあっという間です。その中で、問題を解決できてしまうわけではありませんが、その時々疑問には答えることができると思います。

相談の中心となる補聴器については、いいところもあれば、悪いところもあり、「所詮は機械」という限界もあります。そのことを踏まえて、少しでも現状をよくできるような使い方を探っていけたらいいのかなと思っています。

**第2回運営委員会(11月29日)開催**

14名の委員中11名出席。欠員1名には東島体協理事長を補充。今年度の事業執行状況について報告、審議されました。

手話通訳者全国統一試験の目標合格者数、手話のできる公務員の育成、高校福祉・家庭コースでの養成、災害時安否確認システムの登録状況、防災訓練への参加等について提案や質疑がありました。

また、現在夜20時までの水曜日の開館については、利用状況や雑居ビルの夜間警備と安全性等により見直し、県と協議することになりました。



**災害時安否確認システム**が、ユニバーサル都市を目指す福岡市の障がい者週間記念の集いで共同開発のシステムラボラトリー(株)により紹介されました。12月3日

**巡回ろう相談** 12月21日(木) 10時~15時 唐津りふれ  
**聴こえと健康いきいきセミナー** 平成30年1月31日(水)  
13時30分~15時

**ろう者向け日曜教室** 平成30年1月28日(日)  
10時~12時 肥前さが幕末維新博覧会について

**年末は28日(木)まで、年始は4日(木)から開館**

編集後記：今年の急激な寒さがこたえます。 つ

**聴覚障害者と防災**

~東日本大震災の支援から考える(下)~

宮城県聴覚障害者情報センター

庄子陽子施設事業課長(手話通訳士・社会福祉士)

前第44号に引き続き講演要点

2011年3月11日の3日前に地震があり、やっぱりきたかと思いました。そして3月11日14時46分に大地震が起きました。

翌日、救援宮城本部を立ち上げました。以後、発災時→避難所暮らし→仮設住宅暮らし→新しい暮らしと、それぞれの段階を追って支援しました。

◆その時々感じたこと

- ・安否確認しようにも、デスクトップ入力の会員情報が停電で見られなかった。見える形にしておく、紙に残しておく必要があります。

- ・支援しようにもお金がないと何もできない。Tシャツを作って売り、資金を得ました。

- ・モノの支援が落ち着き、心の支援にシフトした。情報支援者と共にソーシャルワーカー協会から医療メンタルも4月末には宮城入りしました。

- ・被災地の聴覚障害者のニーズは変わっていくこと。避難所生活から生活再建への対応を行いました。

◆宮城でできたこと

- ・外への情報を発信し続けました。→言わないとわからない。毎日、その一日の報告をメールしました。

- ・外からの支援を活用しました。有名人を含めて専門的支援も受けられました。

- ・合わせて受援力がついたのも成果の一つと思っています。

◆支援を通じて感じた課題

- ・情報を得る手段を身につけること…判断材料のため情報が必要。目をつぶってはいけない。

- ・聴覚障害者をもっと理解してもらうこと…聞こえないということはどういうことか。

- ・ほかの関係団体とネットワークを持つこと。

◆参加者からの質疑

ろう者の避難方法はどうすればよいかとの問いには「日ごろからの住民のつながり、顔を知っていることが大切。手話通訳奉仕員講座の修了者には、防災訓練や市町のイベントに参加してもらうことによる手話の継続」などの答えがあり、また段階に応じた被災者のアンケートも大変参考になりましたとの感想が参加者からありました。

**佐賀県聴覚障害者サポートセンター**

〒840-0826 佐賀市白山二丁目1-12 (佐賀商工ビル4階)

TEL: 0952-40-7700 FAX: 0952-40-7705

メールアドレス: info@saga-mimisapo.jp

ホームページアドレス: http://saga-mimisapo.jp/

<開館時間>

9:30 ~ 18:00

9:30 ~ 20:00(水曜)

<閉館日>

毎週月曜日、祝日、年末年始